

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000887		
法人名	株式会社 尚進		
事業所名	グループホームふきのとう東館		
所在地	小樽市桜1丁目27番57号 (電話) 0134-54-7360		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成19年11月28日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】 (19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 17年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤10人, 非常勤 4人, 常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000円 暖房費(10~4月) 5,000円
敷金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		円 月額35,000円

(4) 利用者の概要 ( 11月 1日現在 )

利用者人数	17 名	男性 3 名	女性 14 名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	6	要介護4	5
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 69 歳	最高 101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	西病院、済生会小樽病院、三ッ山病院、小野整形外科、常見医院、たかむら歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ふきのとう東館は小樽市郊外の高台にあって、小樽の市街と石狩湾が一望に見渡せる、景観の秀でたホームである。自然に恵まれた閑静な住宅地に囲まれ、近くに大小二つの公園があって散歩には好適である。築2年余の真新しい建物で、窓が大きく明るい気持ちのよい室内空間となっている。管理者は認知症介護の経験が豊かで、基本的な設備、運営基準は確実にクリアしており、なお高い理想と熱意をもって日々向上に取り組んでいる。開設当初から地域密着の理念を掲げ、多くの市民ボランティアを迎え入れ、近くの中学校との交流も図るなど、地域との融合を実現している。職員の教育訓練には多くの機会を提供して質の向上に努めており、職員同士の融和連携が良くできている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された課題は全職員で真摯に受け止めて改善に取り組んでおり、理念の徹底、玄関の工夫、全体会議の開催頻度、感染症対策の実践、事故事例の共有化など、多くが改善されている。また、遠方の家族への連絡や地域住民への緊急時支援要請なども改善の途上にある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価に当たっては主要な職員で意義や目的を確認しあい、ミーティングで時間をかけて話し合いながら評価をまとめると共に、気付いた点については早速改善に生かしている。なお、項目によっては趣旨の理解が消化し切れていない部分も見受けられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は開設以来、2ヶ月に1回、定着して実施され、施設代表のほか家族代表、民生委員、町内会代表が参加メンバーとなっている。地域やホームの行事、食事のメニュー、ヒヤリハットや事故事例、認知症サポーター、自己および外部評価などについて話しあわれている。これまでのところ事業所側からの報告が中心になっており、運営に活かせるような意見の交換まで持ってゆくのはこれからの課題である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、要望は来訪の折や電話連絡の折にできるだけ聞きだすようにしており、運営に活かしている。介護計画作成の折には家族も加えてカンファレンスを行い、同性による入浴介助、身体拘束回避の方法、個人の生活様式の尊重などについて、家族の要望を取り入れ、改善した。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域交流の重視を謳った運営理念にのっとり、地域との交流に努めている。潮祭りなど、地域の行事には積極的に参加し、町内会に加入し、地域のボランティアを招いて行事を組んだりなどしている。また、近くにある中学校の文化祭を見学に行き、生徒たちとの交流を行っている。さらに地域住民を招いての認知症勉強会、見学会、食事会などで地域貢献もしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、慣れ親しんだ生活への支援と、地域における一市民としての生活を支えるケア、という、事業所独自の理念を掲げて運営の指針としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所内要所に掲げられ、パンフレットにも明記されて周知が図られ、職員にもよく共有されている。定例のミーティングの時には必要に応じて理念の原点に立ち返ってケアの見直しを行っている。	○	理念の趣旨をさらに深く浸透させるよう、ミーティングの都度読み上げるなど、いっそうの徹底を図る方針、とのことなので、その前向きな意欲に期待したい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	潮祭りなど、地域の行事には積極的に参加し、町内会に加入し、地域のボランティアを招いて行事を組んだりなどしている。また、近くにある中学校の文化祭を見学に行き、生徒たちとの交流を行っている。さらに地域住民を招いての認知症勉強会、見学会、食事会などで地域貢献もして、交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に当たっては主要な職員で意義や目的を確認しあい、ミーティングで時間をかけて話し合いながら評価をまとめると共に、気付いた点については早速改善に生かしている。なお、項目によっては趣旨の理解が消化し切れていない部分も見受けられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開設以来、2ヶ月に1回、定着して実施され、行事計画、認知症サポーター、評価などについて話し合われている。これまでのところ事業所側からの報告が中心になっており、運営に活かせるような意見の交換まで持ってゆくのはこれからの課題である。	○	所管の地域包括センターにも参加の要請をし、地域とのつながりをより強固なものにする手がかりとするよう、期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政にかかわる業務の必要で訪問する機会は多いが、さらに進んでサービスの向上のために市の担当者と相談するところまではしていない。	○	行政サービスを有効活用する余地は少なからずあると思われるので、機会を設けて市とのつながりを深めてゆくよう、期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「ふきのとう通信」でホームの活動の様子とあわせて、個別の利用者ごとの生活の様子を伝えている。遠方の家族には電話連絡を密にし、来訪時には詳細な報告をしている。金銭出納記録は毎月家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は来訪の折や電話連絡の折にできるだけ聞き出すようにしており、運営に活かしている。介護計画作成の折には家族も加えてカンファレンスを行い、同性による入浴介助、身体拘束回避の方法などについて、家族の要望を取り入れ、改善した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的にユニット間の人事異動はない。職員の意見、要望に親身に耳を傾けて離職の防止に努めている。職員間のケアの偏りを出来るだけなくすることによって、職員異動によるダメージを少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全国介護事業者協会、地区のグループホーム協議会、その他多くの外部研修の機会に職員を派遣して受講させると共に、それをもとにした事業所内報告・研修会を行って職員の育成に努めている。費用は全て事業所持ちで、勤務扱いである。また、外部講師を招いての内部研修も隔月に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小樽市のグループホーム協議会で交流を図っているほか、近隣や札幌の同業者と個別、随時の交流を持って研修や情報交換を行っているが、ネットワークづくりや職員レベルの相互訪問までには至っていない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学をしてもらったりおやつを食べてもらうなどして馴染んでもらい、納得した上での利用開始となっている。帰宅願望がある時は外に出かけて一回り散歩して、気がまぎれたころ、ホームに戻るなどして、気持ちを落ち着かせるよう、工夫をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る人には役割分担を依頼し、ことわざや花の名前、生け花を教えてもらうなどして、互いに学んだり、支えあう関係が出来ている。出来なかったことが出来たり、心を打つようなことがあると職員共々、時には涙を流して感激し、喜怒哀楽を共にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症のために思いや暮らし方の希望、意向の表出が困難な利用者について、心をこめて根気よく思いの把握に努めている。また、職員同士が話し合っ確認しながら、個々人の意向の理解に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成については、入居時に本人と本人をよく知る家族や関係者から情報を得てアセスメントして介護支援専門員が作成する。入居後はミーティングでの話し合い、申し送りノートを活用、看護師からのアドバイスを得て、職員全員でアセスメントし、本格的な介護計画にしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間は基本的に6ヶ月としているが、全利用者のモニタリングとカンファレンスを1ヶ月毎に行い、最新の情報や気づきを反映させ、実情に合わせた見直しをしている。変更した介護計画は、本人・家族・全職員に伝え、家族には押印をもらっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは、開設時から病院・医院の通院介助を職員が行い、医師の指示がある時はホームで点滴を実施して看護師が管理し、医療連携はしっかりしている。ボランティアによる多彩な催し、買い物のお送りにも応じているが、更に支援を拡大させるために検討中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医や医療機関へ継続して受診できることは、契約時に説明している。受診の結果や心身の状態は家族に報告し、家族の了解を得て医師・看護師との連携を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関する指針をホームとして定めて、終末期の受け入れ態勢を整え、公表している。今後も状況変化に応じ、その都度、本人・家族と話し合い、意向を確認して、医師・看護師と連携していく方針である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・全職員が、研修やミーティングで学びながら利用者一人ひとりの尊厳と誇りを大切にすることを徹底させている。職員の言葉かけや対応はさりげなく柔かい。個人情報に係わる記録類は、個別にファイルで保管、管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々、一人ひとりのペースを大切に、可能な限り支援しているが、全ての要望には応えられていないのが現状である。現在も、より多くの要望に応えられるように取り組んでいるところである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する一連の作業は、たまに食材の準備を一緒にする利用者はいるとのことである。献立は食材納入業者が栄養士の管理の下に立てているが、時に職員が利用者の希望も取り入れながら、アレンジしている。食事時は、利用者と職員が同じテーブルで和気あいあいと楽しみながら摂っている。	○	食事に関する一連の作業を利用者個々の力を活かすという視点で、利用者が力を発揮し、それが張り合いや喜びにつながるよう利用者を巻き込んで、更に、利用者の前向きな意思や気持を引き出すように関わることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人当たりの入浴回数は基本的に週2回とし、それ以外に、特に汚れるなどした時はシャワー浴で対応している。異性の入浴介助を拒否する利用者には、同性の職員が介助することになっている。	○	入浴回数・時間への対応はホームでも課題としているので、出来る限り一人ひとりの希望に沿って入浴を楽しめるような体制作りを進めることを期待したい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみの支援としては、月に何度かボランティアによる行事に自由に参加し、楽しんでもらうように計画・実施しているが、職員主導になっている嫌がある。	○	現在はホームとしても試行錯誤している段階なので、今後は利用者の要望を把握し、一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて、「本人が生きることへの支援」という関わりに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが急な坂の上に建っているため、歩ける距離には限りがあるので、遠出の外出は車で「お花見」や「食事ツアー」に出かけている。利用者には毎日声をかけ、希望があれば近くの公園への自由な散歩に対応している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、一般家庭の状況に合わせて午後8:00～午前6:30に限って行っている。日中は玄関のチャイムが鳴ることで外出をキャッチしたり、職員間の連携で見守りと対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署が実施する災害訓練に職員を派遣し、参加した職員がこれをホームに持ち帰って報告し、器具の操作を職員間で訓練している。現在は地域の協力を得るための話し合いは行っていないが、課題としている。	○	災害時に地域住民の協力を得られるよう、運営推進会議で働きかけを行うこと、および避難訓練をホームで実際に行うことを検討するよう、期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量・水分摂取量を把握し、記録している。水分摂取が不足している場合には、夜間も含め1日を通して確保できるようにしている。栄養バランスは栄養士が管理し、嚥下困難な場合はとろみのある食事を、時間を掛けて介助している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく暖かく、不快な音や臭いはない。壁には利用者が作った季節感のある張り紙細工・水彩画・書道が貼られている。居間は家庭的な雰囲気が漂い、多くの利用者がゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇があったり、クリスマスツリーの灯かりが綺麗に光っていたり、手作りの人形があったりして、本人の使い慣れたものや好みのものが活かされて工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。